

1. 10月例会の報告

10月12日明治大にて小崎尚、岡沢修一、小泉武栄の三氏から、中国風の自然についてのお話があった。地形、植生をはじめとする珍しいスライドが多数あり2:45 ~ 6:00までの長時間ではあったが飽くことがなかった。(参加者23名……今回は珍しくも、岡山、戸谷両名誉会員のお顔がみられた)。

2. 11月例会とミニ懇親会のお知らせ

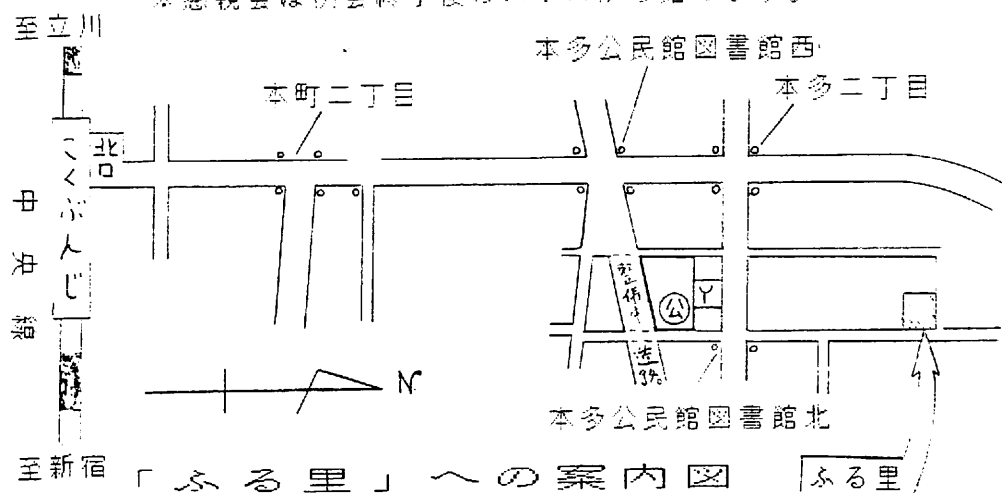
昨年にひきつづき今年も秋の深まる武蔵野で手打ちそばを味わいながらの例会を開きます。多数の御参加を期待しております。

11月30日(土) 15:00 ~ 17:00(例会)

会場：国分寺「ふる里」(下図参照)

- 1) 関 秀明氏(宇芸大・院)：北アルプス蝶が岳周辺の周氷河性岩屑斜面
- 2) 沢口晋一氏(明大・研)：日高山脈札内川入の沢の水河地形

※懇親会は例会終了後の17:00から始めます。



至新宿 「ふる里」への案内図

(国分寺駅から徒歩約12分)

※「ふる里」の場所は少々わかりにくいと思いますが、道に迷ったら電話してください…(23) 2667。なお、懇親会費は¥2000ぐらいです。
0423

3. 北上山地地形巡検の報告

秋の地理学会（岩手大）に先だつ10月17日、18日の両日、北上川上流～北上山地北部で井上克弘（岩大）、桧垣大助（建大）、沢口晋一（明大）の3氏を案内者として行われた。

17日は井上氏の案内で北上川上流域の火山灰層序とその中にみられる化石周水河現象、姫神岳の岩塊流などの観察を行った。18日は桧垣氏の案内によって、北上山地内に発達する山麓緩斜面（葛巻町・畑沢）、沖積錐等の観察を行い、当地域の斜面地形構成とその形成期等について討論がかわされた。葛巻町役場で昼食の後、米地 菊地両氏の案内によって葛巻町泥這の旧石器時代遺跡を見学した。このころからみぞれ模様の天候となったが、意を決して冬將軍の倒来を待つばかりの北上山地最高位侵食面（1100m）に向かった。そこから沢口の案内に替わり、山頂緩斜面の法面にみられる角礫層や稜線上に広がる荒廃裸地の観察を行いその成因等について討論がなされた。

今回の巡検は参加者が20名と盛会で、移動にあたっては乗用車8台が連なった。宿舎の一戸町西岳自然村管理センターでは夜遅くまで地形談議？に花が咲いた。（沢口 記）

参加者（順不同）

高橋伸幸、曾根敏雄、中俣 香、水野一晴、田村俊和、米地文夫、西城 潔、宮城豊彦、井上克弘、杉田久志、小泉武栄、関 秀明、高田将志、久保純子、菊地強一、鈴木由告、小崎 尚、清水長正、沢口晋一、戸田真夏、大城直樹、石崎尚人、桧垣大助、吉永秀一郎、鈴木郁夫、杯 正久。

※今年の打ち上げは12月21日（土）頃を予定しています。

東崑崙山脉の氷河地形

岡沢修一 (千葉英和高校)

表 1 東崑崙山主脊現代冰川簡況

冰川長度 (公里)			冰舌寬度 (米)			冰舌末端高程 (米)		粒雪線高程 (米)		冰川及積雪區面積 (平方公里)		
最長	最短	平均	最寬	最窄	平均	南坡	北坡	南坡	北坡	南坡	北坡	總面積
5.0	1.0	2.7	700	200	350	5050 5150	4500 4800	5300 5350	5100 5150	26.4	41.0	67.4

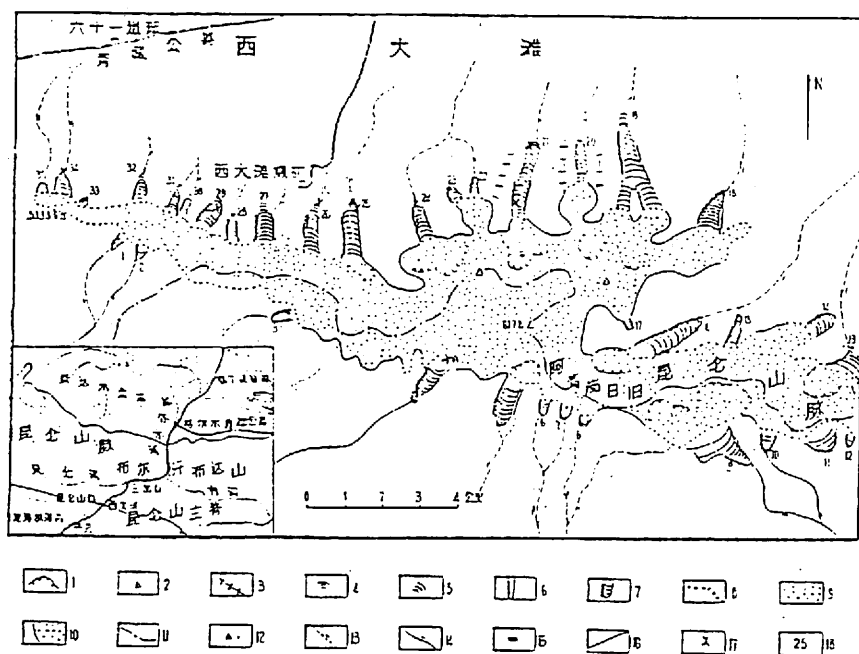


图 1 西大滩以南東崑崙山主脊現代冰川分布略图

1—粒雪盆, 2—角峰, 3—暗脊, 4—冰崖, 5—終碛垅, 6—側碛堤, 7—冰舌, 8—粒雪線, 9—積雪區, 10—積雪界線, 11—山脊線, 12—山峰, 13—暫時性溪流, 14—常年性溪流, 15—民居點, 16—公路, 17—調查點, 18—冰川編號

寒冷地形談話会 10月例会発表要旨, 1985年10月12日
東昆仑山脈の地形

小 嶋 尚 (明大)

昆仑山脈はパミール高原から東へ2000 km 余も延びる大山脈で、北側のトリム(800-1000 m), ツアイダム(2700-3000 m) 両盆地と、南側の青藏高原を分けている。今回訪れたのは、同山脈東部のいわゆる東昆仑山脈の一部、カカサイジモンカ(6178 m)を主峰とする、赤石山脈ほどの規模の山塊である。南北両側を高角度の逆断層で切られた復活山地で、北麓には巾数 km の西大^{シータータン}淮盆地、南側には広大な青藏高原(4000-4500 m)が展開している。山脈の大部分は古生代の変堆積岩類で構成され、深成岩類はほとんど露出していない。年降水量数百ミリの乾燥地である。

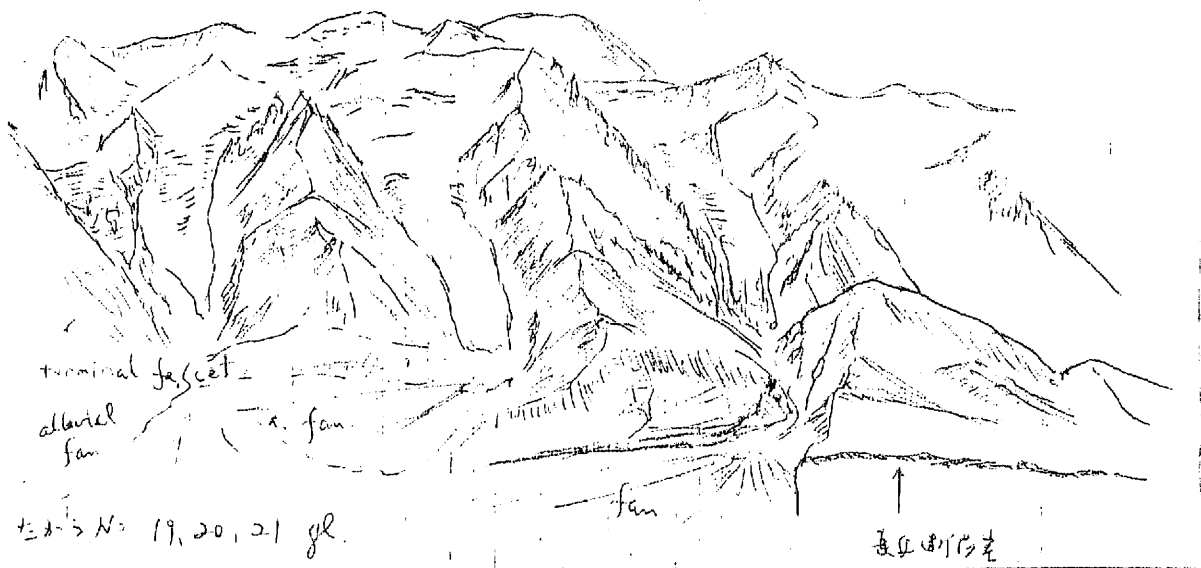
主脈は5500 m前後の定高性の著しい、氷帽におおわれたなだらかな山麓で、その上に6000 m 級の峰が殘丘状に突き出ている。北面では雪線高度が5200 m, 氷舌端が4350-4500 m, 永久凍土の下限が4300 m で、周氷河域が広い範囲を占めている。草がゆす^すかに生えるものの乾燥・寒冷の山で地形が丸見えでよくわかる。そのようは図のようにまとめられる。

表 1 东昆仑山第四纪地质简表

地 层 时 代	地 层 系 统	年 龄 (万年)	厚 度 (米)	堆积物成因类型	气 候 环 境	构造运动
第 四 纪	全新世	现代河床 高河漫滩 第一级阶地 0.491 ±110	10—200	冰碛、冰水沉积、冰缘堆积、风沙堆积、风成黄土、次生黄土、河床冲积、河漫滩淤积等。侵蚀与堆积交替。	海拔5000米以上冰川气候，雪线变化区。海拔3500米至5000米冰缘气候，多年冻土变化带。海拔3500米以下干寒气候，季节性冻土区。	持续上升
	更新世	5—20 Last gl. 西大滩—木头山	5—20	冰碛、冰水沉积、冰缘堆积、风成黄土和次生黄土、河床冲积、河漫滩淤积、及沟口冲积扇堆积等。侵蚀与堆积交替。	海拔4800米以上，冰川气候，雪线变化区。海拔3300米至3800米冰缘气候，多年冻土变化带。海拔3300米以下干寒气候，季节性冻土区。	构造上升差异性运动
	全新世	10—30 M/R (d)	10—30	冰碛、冰水沉积、冰缘堆积及黄土等。	山地冰川、冰缘气候，河谷冰缘和干冷气候。	构造上升差异性运动
新 第三纪	上新世	50—100	50—100	上部冲积砂砾石层，下部粗大的河床相砾石层。	干热气候，可能为寒冷气候。	构造运动相对稳定
中 新 世	50 (?)	50 (?)	50 (?)	山间河谷冲积。	亚热带气候。	构造上升，长期稳定。

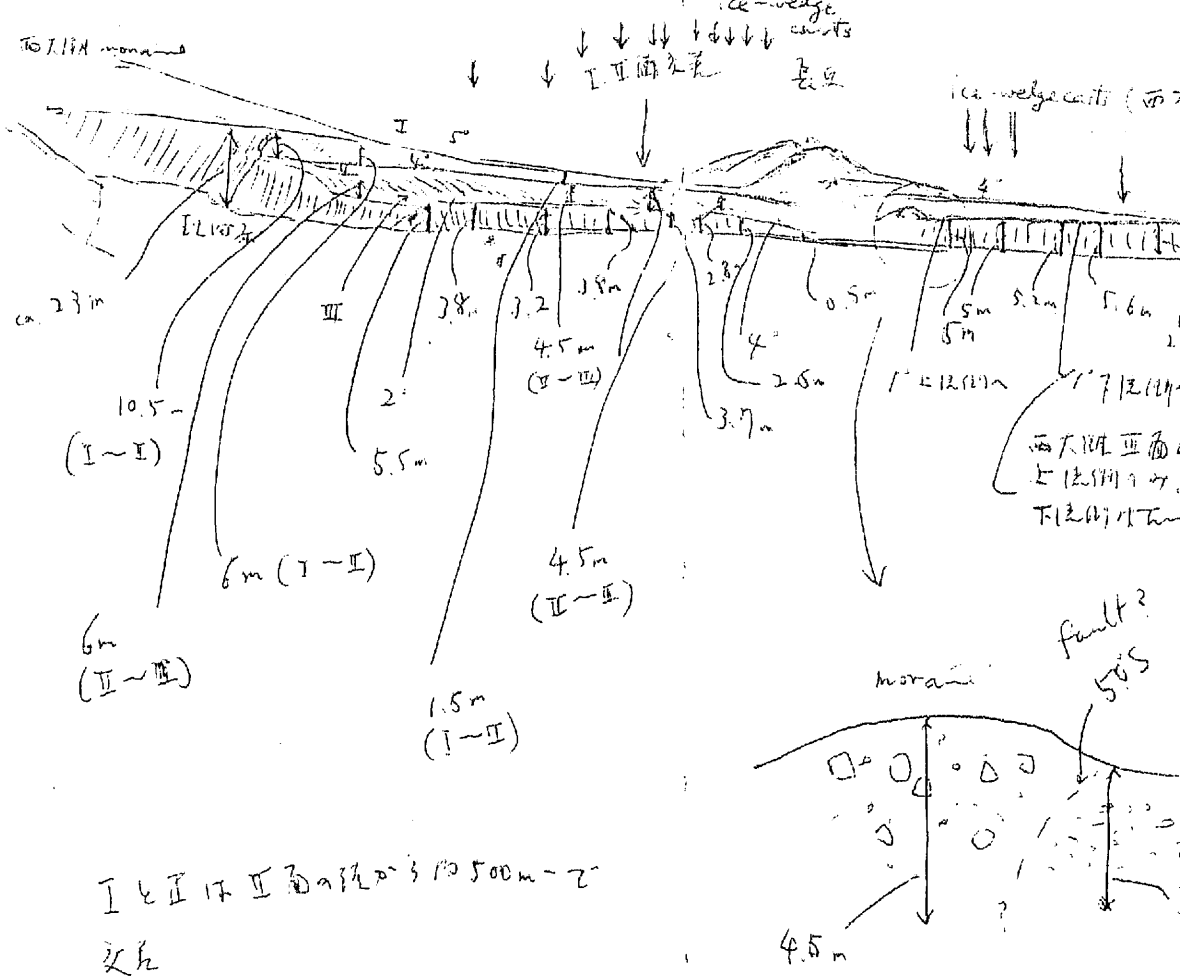
No. 1

1288. 8. 19. 13:58 4420 ~ 223



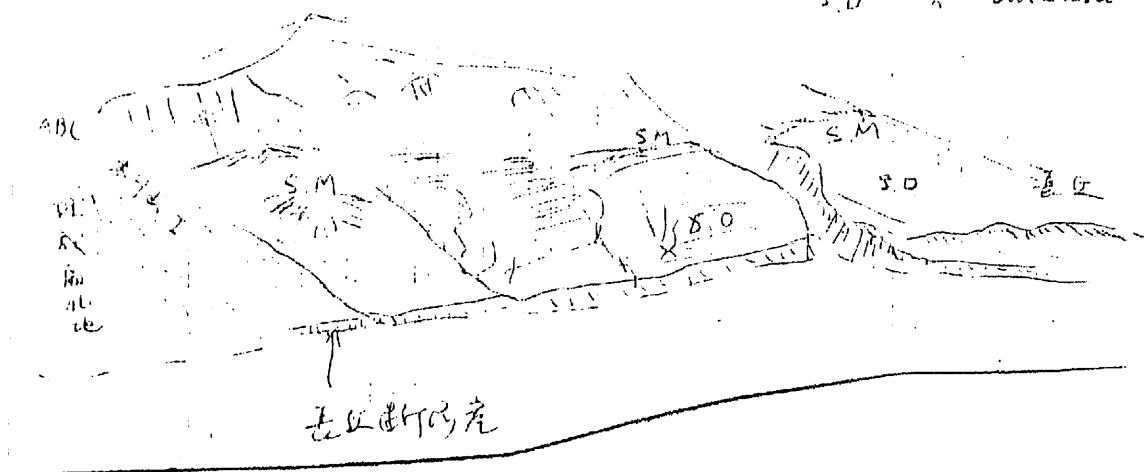
1285. 8. 21. 14:58

No. 21 valley 在 200m 处 有 断 崖 及 外 阶 外 阶 阶 地



1985. 8. 19. 11. 05

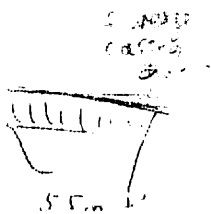
S.M. 主大規模 moraine
S.O. 小規模 outwash



N: 21 valley 大規模 4215m
高 2.5m and outwash 断り
ice-wedge cast

の断り

(断り)



12. 2. 1987

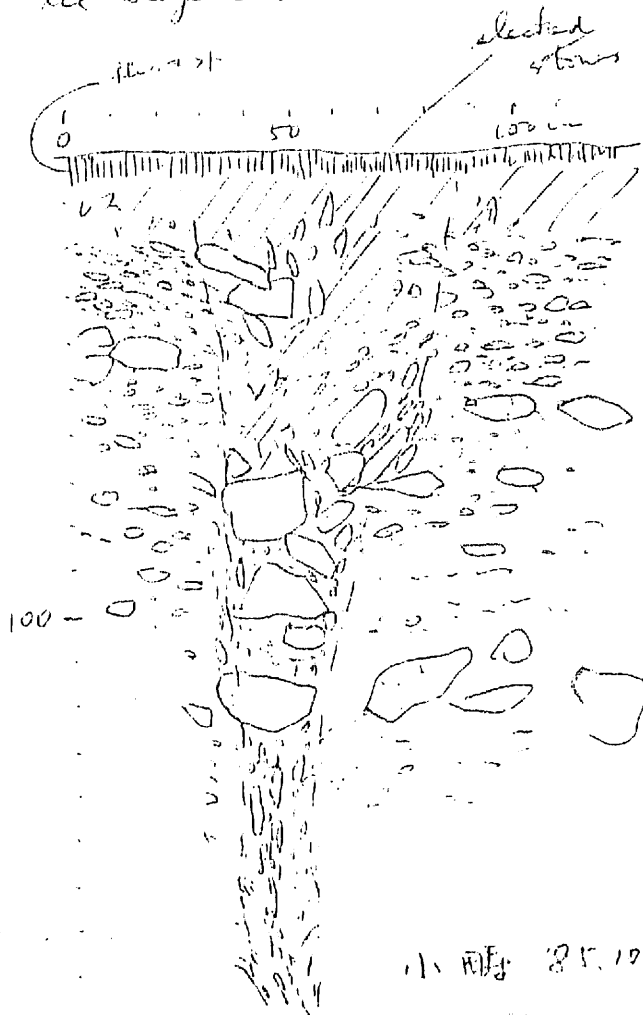
断り (S.O.)

断り

断り

断り

断り



小断り 85. 12. 12

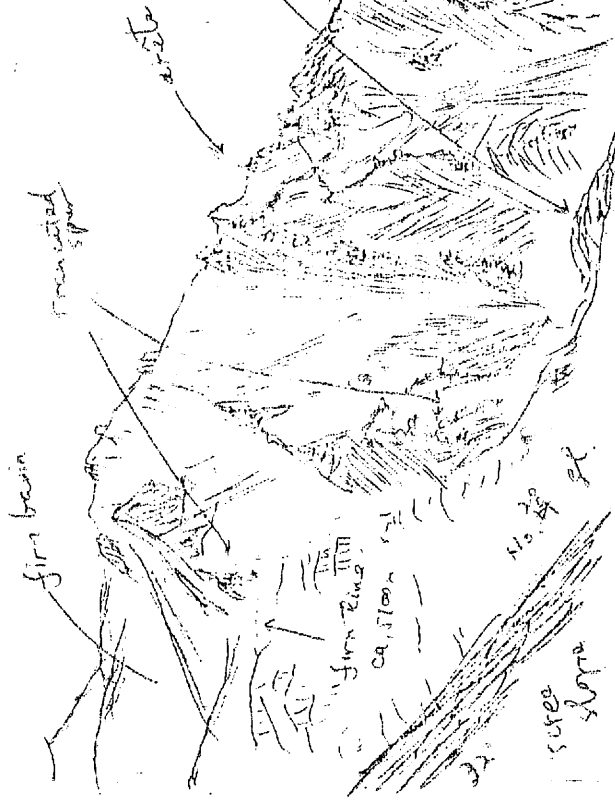
1985.8.11. 1800

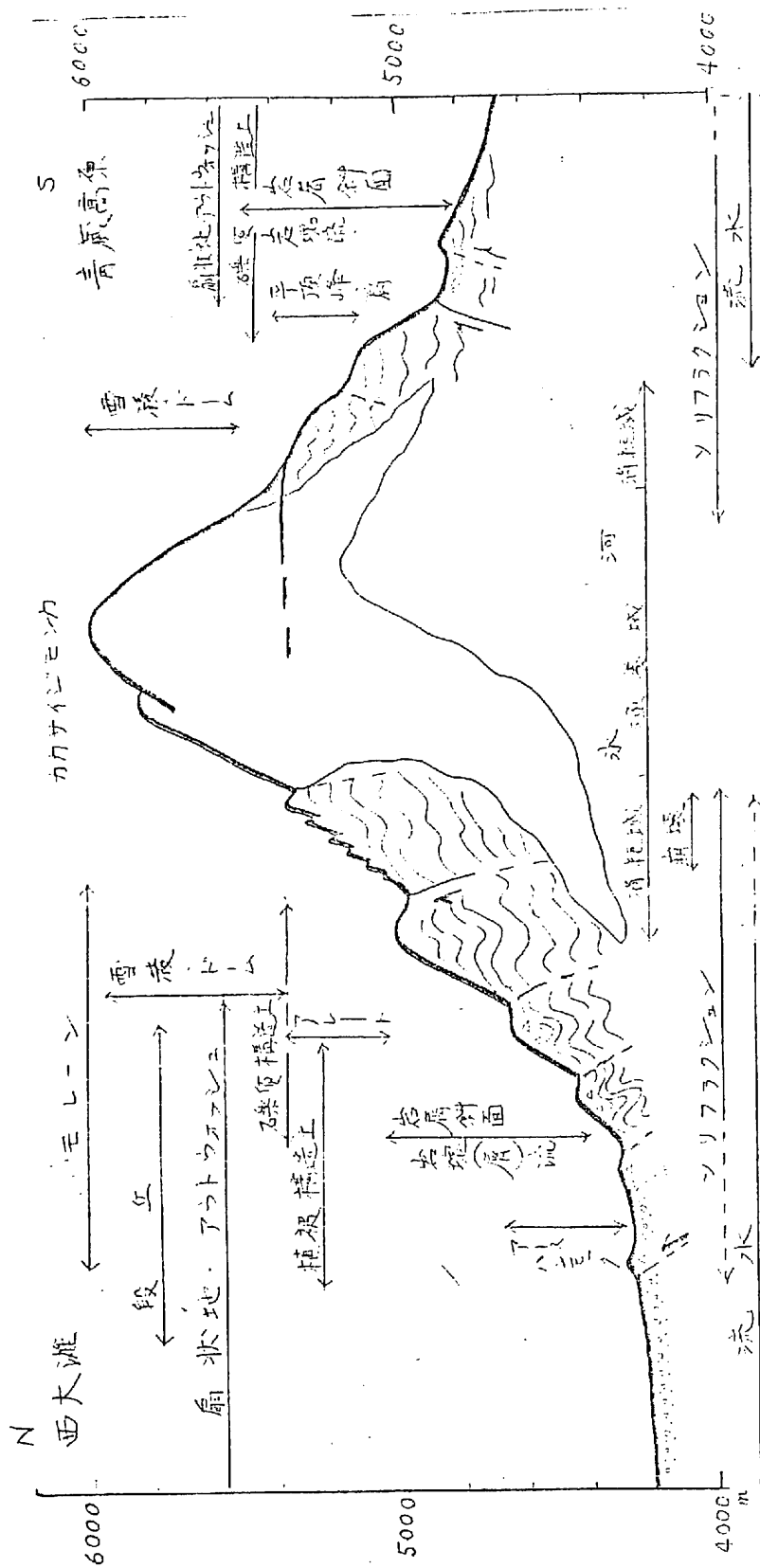
No. 20 gl. East ridge 57



1985.8.10. 1800

No. 27 gl.





東昆倉山脈を南北に切った模式地形断面

小幡 昭 1951.10.12

『黄河源流地域の自然を訪ねて』

小泉 武宗 (東京学芸大)

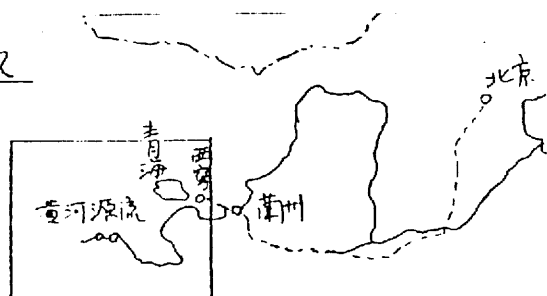
5月23日から7月23日までの2ヶ月間、日本地理学会
青蔵高原黄河源流探検隊の一員として黄河源流地域を
訪ねた。黄河源流地域は千ハットから青海湖にかけて
たがひ青蔵高原の東北隅にあり、海拔は4300~4800m
に達している。ここには氷河こそないが、連続した永久凍土が
たがひ、小氷河や融解湖、岩塊流、構造土などさま
まの周氷河地形を観察することができた。また植生も
真の高山植生といふこともでき、大変興味深いものであった。
今回はスラットを中心に、次の各テーマについて重点
的に報告する。

1. 黄河源流の氷体とその成因について

2. 永久凍土の融解湖について

3. 黄河源流地域の植生

4. 星宿海の原因



0.77+8

0.77+8

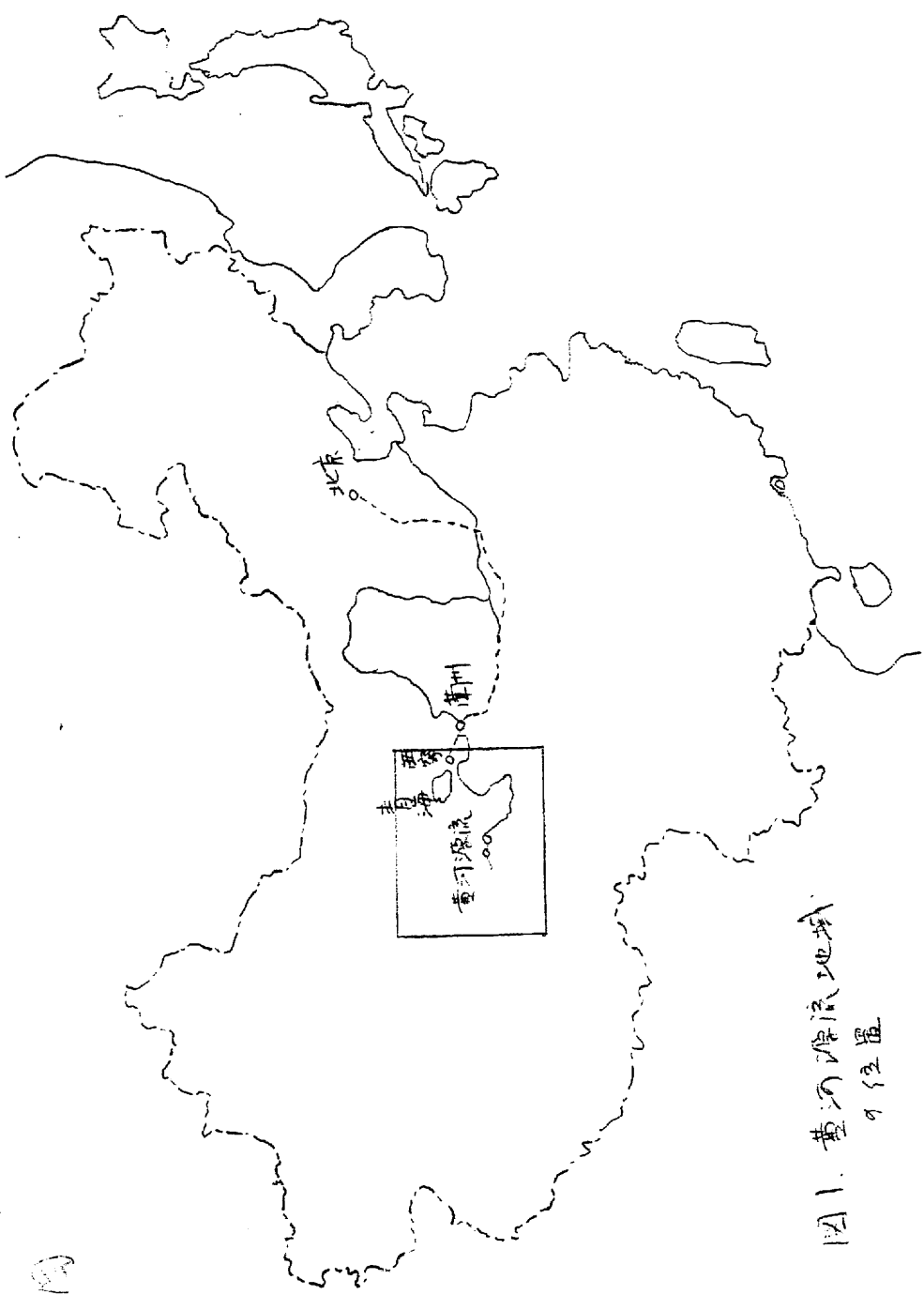


图1. 黄河源流地域
位置

